

平成 29 年度南予地方局予算の実施状況 (H30. 3. 31 現在)

- 1 予算事項名 柿産地力強化支援事業費
- 2 事業期間 平成 28 年度～平成 29 年度
- 3 所 管 産業経済部八幡浜支局産地育成室

4 事業概要

大洲喜多地域は柿の主要産地で、刀根早生、富有等が栽培されているが、近年着色の遅れや出荷時期の集中化等問題を抱え、技術対策が必要になっている。そこで、まだ本県で導入されていない「環状剥皮処理技術」を新たに導入し、果実肥大促進と収穫の前進等に取り組み、農家所得と産地力の向上を図る。

	平成 29 年度
予算額	732 千円

5 29 年度の事業実施状況

(1) 柿産地力強化検討会の開催 (年間 3 回)

地域の主要品目である柿の産地力強化を図るための対策ならびに事業の推進方法について協議する検討会を開催した。構成メンバーは、JA愛媛たいき、JA愛媛たいき柿生産部会代表者、大洲市、内子町、県(農産園芸課、果樹研究センター、八幡浜支局産地育成室、地域農業室大洲農業指導班)。



写真1 第2回検討会

① 第1回 : 5月30日開催

昨年度実績と今年度事業概要の説明、昨年度の実証結果から得られた課題に対する今年度の実証計画案について協議した。また、産地での取組み状況や意向を把握するために生産者を対象に実施したアンケート結果を報告した。

② 第2回 : 9月4日開催(現地検討会)

刀根早生の収穫直前に現地実証圃で開催し、着色状況や肥大状況など、環状剥皮とキュアリングの効果について確認し、意見交換をした。

③ 第3回 : 3月9日開催

今年度現地実証結果を報告した。2年間の実証を踏まえて作成した「柿の環状剥皮マニュアル」の内容のほか、技術普及や産地力向上の方向性について意見交換をした。

(2) 早期出荷と果実肥大促進対策の検討

(現地実証圃の設置)

出荷時期の早期化による販売単価と農家所得の向上に向けた環状剥皮処理技術を確立することを目的に、現地実証に取り組んだ(内子町内に刀根早生2か所、富有2か所)。

刀根早生では、環状剥皮処理により収穫が早まることの実証できたので、さらに、肥大促進効果を考慮し

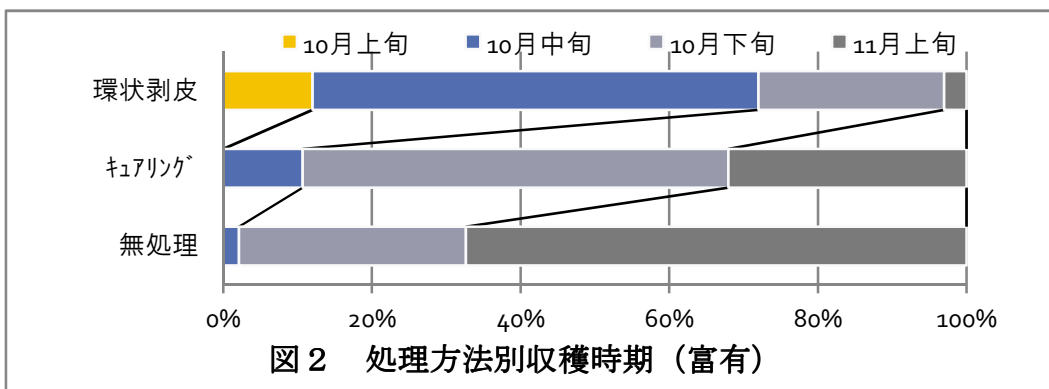
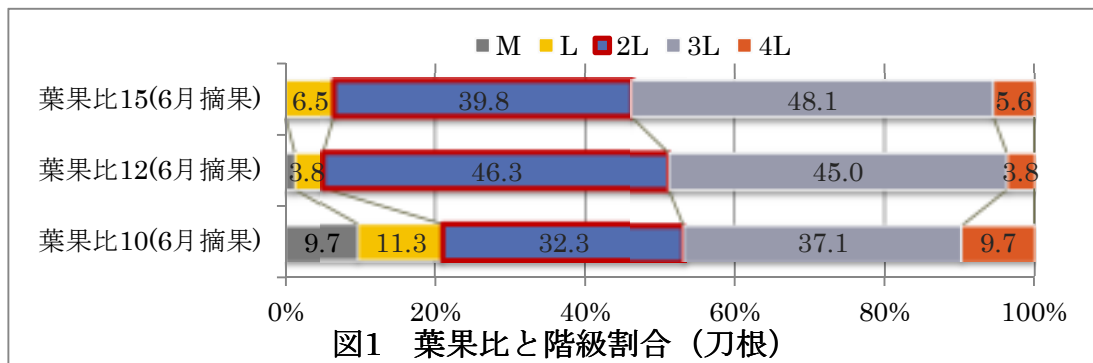


写真2 環状剥皮(1cm幅で皮を剥き、枝折れ防止に竹を添える)

た摘果程度と、樹勢を考慮した環状剥皮の程度を検証した。その結果、環状剥皮処理による果実肥大効果を考慮した着果程度として葉果比12程度が適していること(図1)のほか、樹勢を維持するための処理程度として枝全体の2割程度にするか、剥皮処理を多くした翌年は無処理またはキュアリング処理にして樹勢回復を図るのが良いことが確認できた。

富有は、キュアリングをすると、環状剥皮に比べて肥大促進効果に伴うへたすきや軟果の心配が少なく、無処理に比べて収穫が早まることが確認できた(図2)。

2年間の現地実証や検討をもとに「柿の環状剥皮マニュアル」を作成した。



「環状剥皮」を活用した柿産地力向上のイメージ

1 刀根早生 環状剥皮とキュアリングを組み合わせることで早期出荷を実現

